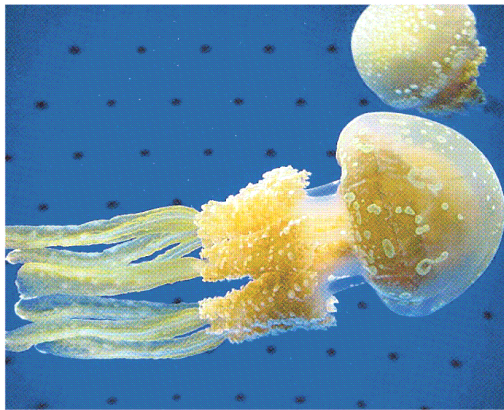
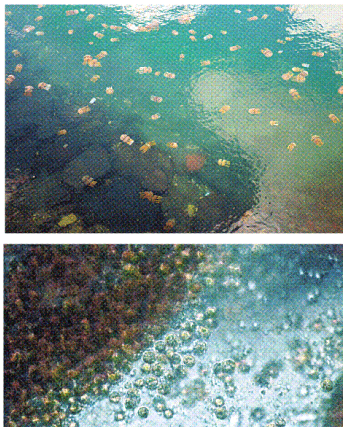


鹿児島市の長水路に集まったタコクラゲの体の中で共生する褐虫藻。タコクラゲの体の中で共生する



かごしま水族館で展示しているタコクラゲ

タコクラゲ

学名 *Mastigias albiguttatus*

分類 刺胞動物門根口クラゲ目タコクラゲ科

分布 関東以南の海

特徴 傘には水玉模様があり、その下にフリルが付いたような8本の「口腕」と呼ばれる部分がある。口腕の先に棒状の突起が伸びている形が、タコをイメージさせるため、この名がついた。褐虫藻が光合成をして作り出した養分を利用して成長するが、褐虫藻を持たずにプランクトンを餌にして成長する個体もいる。褐虫藻がいるものは茶色で、いないものは白い。鹿児島県では7月下旬から見られ始める。

天気ですみかを変える

タコクラゲは鹿児島でも多く見られるクラゲです。8〜9月ごろ大群になることもあります。クラゲといえど、海水浴で刺され、とても痛い思いをしたことがある人もいます。タコクラゲの仲間と泳ぐことができる塩水湖もあるそうで

す。鹿児島島のタコクラゲは、水温が下がる11月ごろになると、徐々に見られなくなりま

す。鹿児島島のタコクラゲは、水温が下がる11月ごろになると、徐々に見られなくなりま

おもしろ生き物図鑑

かごしま水族館から



があります。茶色いタコクラゲの体には、直径10センチ(100分の1)ほどの小さな藻の仲間、褐虫藻がすんでいます。この褐虫藻に光合成をさせるため、晴れた日は明るい水面に集まります。曇りの日や夜は、海底に沈んでいることもあります。波の荒い台風のとくも、海底に避難しています。クラゲといえど、流されるままに海を漂う生きものですが、このように天気や海の状態に合わせて泳ぎ回る一面も持っています。

普段はふわふわ漂っている、刺されると痛い、というのが一般的なクラゲのイメージかもしれませんが、しかし、広い海の中には、まだまだ不思議なクラゲがたくさんいます。 (展示課魚類展示係・築地新光子)